



LUI「公募研究」成果報告書

研究課題（和文）：平安女流文学者たちの近代——「良妻賢母」と「美人」と文学

研究課題（英文）：Heian Women Writers in Modern Ara: Good Wives, Wise Mothers, and the Beauties as Writers

申請者名・所属先：永井久美子・総合文化研究科

海外招聘者名：無

1. 研究の目的

本研究は、申請者がこれまで行ってきた紫式部の伝記と肖像画の伝播をめぐる考察を一つの指針として、近代の女子教育の中で理想とされた女性像の中での文学者の位置づけを問うものである。特に平安女流文学者たちの近現代におけるイメージ形成の過程で、「良妻賢母」や「美人」といった言説と女性の創作活動がどのように結びつけられたかを明らかにすることを旨とする。

2. 研究開始当初の背景

申請者は、博士論文「物語絵巻に見る後白河院政期——『伴大納言絵巻』『彦火々出見尊絵巻』『吉備大臣入唐絵巻』を中心に」をはじめ、平安時代の絵巻物の研究を主に行ってきた。近年は、絵巻物の近現代における受容のあり方への関心から、絵巻などで培われてきた偉人像が近代以降にどのように継承され、あるいは変化したかという問題に取り組んでいる。科研費若手研究（B）、および鹿島美術財団からの研究助成により紫式部についての論考をまとめたが、今後、他の文学者の伝記、肖像についても研究を広げる必要性を感じている。

研究を発展させるにあたり、科研費基盤研究（C）を新たに申請したほか、特に平安時代の女性文学者についての研究を重点的に行うべく、本研究を申請した。

新規科研の主たる課題は、近代以後の人物伝に見られる欧米の偉人伝やロマン主義からの影響の分析であるが、研究を進める中で、中国の列伝についても、日本における人物伝

の形式の素地として検討する必要があると実感した。具体的には、漢文の略伝と肖像画を掲載した菊池容斎による『前賢故実』（天保7年（1836）～明治元年（1868）刊）と、それ以後の文学者の伝記の変化を見ることが、具体的な研究方法として有効であると考えている。

3. 研究の方法

紫式部をはじめ、個別の人物研究は数多くなされてきたが、文学も美術も、研究は時代別に分断されがちであり、複数の人物伝の比較検討が十分な状態とはいえない状況にある。今回の研究は女性に焦点を当てたものだが、偉人伝のテキストと表象のあり方を、ジャンル、時代を横断し幅広く問う研究の第一歩として、独創性を有する方法であると考えている。そして、旧制第一高等学校の教育に用いられた明治期の日本画を複数所蔵する駒場博物館を擁する東京大学での研究にもふさわしいものとする。

4. 研究成果

平安時代の女流文学者のうち、小野小町と和泉式部についての研究を新たに進め、それぞれオープンセミナーで発表を行った。小野小町についての研究は、セミナーの内容を発展させたものを国際比較文学会（ICLA: International Comparative Literature Association）マカオ大会でも発表した。

小野小町と世界三大美人言説についての研究は一般への反響が大きく、HMC セミナーの後、学内外のメディアで取り上げられ、高校生に向けても研究内容を発信する機会も得た。

このほか、「美」の対極にあるものの研究として、絵巻「病草紙」における「醜」の表現についての論文も刊行した。

4. 研究成果等

第2回 HMC オープンセミナー

- 題目：近代「美人」言説における小野小町
- 日時：2018年10月12日（金）17:00 - 19:00
- 場所：東京大学東洋文化研究所 第一会議室
- 報告者：永井久美子（総合文化研究科・准教授）
- ディスカッション：林香里（情報学環・教授）
- 概要：小野小町を「世界三大美人」の一人に数える言説は、明治末期から大正期の日本で生み出されたようである。小町の伝説は、早くは院政期の説話集に認められるが、近代においては、西洋・東洋の各文化圏に対抗しうる、日本を代表する「美人」としての小町像が新たに形成されることとなった。多くの女性の中でも、特に小町が取り上げられるようになった主な要因は、彼女が王朝時代の歌人であったことに求められそうである。やまとことばを操る小町に、理想とする日本の女性像を求めた明治～大正期の気運を、婦人雑誌の分析等から考察する。

第13回 HMC オープンセミナー

- 題目：「恋愛歌人」としての和泉式部と女人往生 ——近代以後の和泉式部伝における「くらきより」歌の評価
- 日時：2019年7月26日（金）17:00 - 19:00
- 場所：東京大学伊藤国際学術研究センター3階 中教室
- 報告者：永井久美子（総合文化研究科・准教授）
- ディスカッション：菅原克也（武蔵野大学・教授）
- 概要：和泉式部は、近代以後も数多くの歌人や評論家を惹きつけてきた。多くの評伝が生み出され、実証的な人物研究が進められた一方で、式部には時代が求める歌人像が多分に投影された。与謝野晶子以降の評伝に、式部の男性遍歴に特に注目する傾向があり、「情熱的」で「奔放」な恋愛歌人としての人物像が強調されが

ちであることは、先行研究でも指摘されている。

和泉式部をめぐっては、近世以前、女人往生を遂げた伝説も広く知られていた。式部の信心は、近代以降、恋多き人生との関係でどのように語られたのか。勅撰集たる『拾遺和歌集』に入集した名歌「くらきよりくらき道にぞ入りぬべき はるかに照らせ山の端の月」の近現代の評伝における評価を比較することを通して、実証研究における信仰の語られ方、恋愛歌人として式部に求められた人物像のあり方を考察する。

5. 主な発表論文等

[図書]

- 永井久美子「暴露の愉悦と誤認の恐怖——「病草紙」における病者との距離」
- 牛村圭編『文明と身体』臨川書店、2018年10月31日、pp.9~37
- HMCブックレット：オープンセミナー2回での発表内容を活字化予定、2020年度刊行見込み

[雑誌論文]

[学会発表]

- NAGAI Kumiko “The World Beauties and Classical Japanese *Waka* Poetry”, International Comparative Literature Association (ICLA) Congress Macau 2019, 於・University of Macau (中華人民共和国マカオ特別行政区)、2019年7月30日

[その他]

- 東京大学ホームページ UTokyo FOCUS FEATURES 掲載インタビュー「世界三大美人言説から見えてくる人々の「認識」の作られ方 小野小町は本当に美人だったのか」(A legendary beauty? Dissecting popular myths about ancient *waka* poet Ono no Komachi)、取材・文：小竹朝子、東京大学広報室、2019年3月7日公開（日本語版 <https://www.u-tokyo.ac.jp/focus/ja/feat>

ures/z0508_00096.html) ; 英語版
https://www.u-tokyo.ac.jp/focus/en/features/z0508_00097.html)

- 東大発オンラインメディア UmeeT 掲載
- インタビュー「「世界三大美人」って誰が決めたの？」
(<http://todai-umeet.com/article/39067> /取材: : UmeeT 編集部、2019年10月4日公開)
- テレメール進学サイト「夢ナビ」講義 No.09848 「物語を読むためだけではない？ 古典の絵画化に込められた意図」
(<https://yumenavi.info/lecture.aspx?GNKCD=g009848> 株式会社 FROMPAGE、2019年5月21日公開)
- テレメール進学サイト「夢ナビ」講義 No.09849 「小野小町や紫式部はどんな顔？ 文学にもとづく肖像画の変遷」
(<https://yumenavi.info/lecture.aspx?GNKCD=g009849> 株式会社 FROMPAGE、2019年5月21日公開)
- “JAPAN BRAND”な学問の広告 古典 (小野小町)「小野小町や紫式部はどんな顔？ 文学にもとづく肖像画の変遷」、テレメール進学カタログ『SELF BRAND 2020』株式会社 FROMPAGE、2019年6月10日、p.76, p.81, p.90
- 大学研究&学問発見のための国公私立大合同進学ガイダンス「夢ナビライブ」講義「物語のカスタマイズ～絵巻が作る新しい世界」2019年10月5日(土) 於・夢メッセージやぎ、主催：株式会社 FROMPAGE

以上